



水辺のひらば

No.20

2014年10月 1日発行



▲たくさん並んだアルミの装置は、野外アートのような感じでした。
◀楽しそうに川遊びをする子供たち。人と自然の大切さを感じます。

**太陽のエネルギーでココアを飲む
水辺の大楽校
ソーラーッキング体験**

7月26日、滝谷森林公園で行われたイオンチアーズクラブの水辺の大楽校は、子どもたちが自然の中で自らの体験を通して、発見し学ぼうという活動です。毎年、このクラブの活動を加治川ネットが担っています。

チアーズクラブでは毎回テーマがあり、それに沿った企画を考えます。今回のテーマは「太陽と自然」。沢登り探検で沢ガニ発見、加治川でライフジャケットを着用したかっぱの川流れ体験のメニューに加え、テーマに沿ってソーラーッキングを取り入れました。

ソーラーッキングは台所で使うアルミ板で受け皿を作り、中央に水を入れた黒い飲料缶を置き、太陽の熱を集めて沸騰させ、そのお湯でココアを飲むという企画です。緑の芝生の上にそこかしこ置かれたアルミの装置は、光を照り返し非日常的な空間を創り上げていて、さながら野外アートのようでした。

お昼前に製作して設置し、午後の川遊びをして戻ってみると、見事にお湯になっていました。温度を測ってみると90度Cもありました。まさに太陽の贈り物で、おかげで美味しくココアをいただくことになり、子どもたちは大喜びでした。

宝物みくつけた

サラダでもお茶でも楽しめる食用菊「花嫁」



さわやかな香りの食用菊「花嫁」

一重菊「花嫁」プロジェクトが商標登録を行い、商品開発を行っている「花嫁」。これは主に新発田地域

寄稿 殿様街道てくてく旅 ⑬

日光街道

さて、今回は栃木県大田原市佐久山から35km歩いて、県都宇都宮に着いた。宇都宮は、この旅で出会う初めての都会で東京を感じさせる。大きなアーケードの一角には、簡素な屋台が集まって多様な料理や酒が楽しめるようになっている。新発田でもこんなものがあったら面白からうと思ってもみたり。

今回は小山市を歩いた。日光街道の道標は少しずつ江戸に近くなったことを教えてくれる。とりわけの起伏も無くなだらかな国道沿いを歩くことが多くなった。小山市は大きな地方都市で、秋の日差しの中、あちらこちらでイベントが催され賑わっていた。思川（おもいがわ）という風情のある名の大きな川がゆったりと流れ、河原や川沿いの道で多くの人が秋の一日を楽しんでいた。

この旅で心に残ったのは、旅程を終えた後の観光で栃木市へ行ったこと。恥ずかしながら栃木市なる所があることを今まで考えたことが無かった。考えれば当然のことなのに。明治の初期までは県庁所在地だったというその町は、かつての華やかさを思わせつつも、忘れられたような寂しさと懐かしさを漂わせている。お堀や古い家々の間を今一度ゆっくり歩きたい、そんな町だった。

小山市の町の中、「まちの駅」という物産館でこの旅は終わり。次回はここからスタートすることになる。(恵)

(次号へ続く)

で栽培されてきた在来品種の食用菊です。飾ってもきれいで食べても美味しいと、一部の人たちによって暮らしの中で大切に育まれてきました。食用菊といえば「もつてのほか」「かきのもと」などが有名ですが、この一重の菊はそれらとは異なる食味を持っていきます。特徴的なのはエグミがなく、花芯や葉まで全部食べられるというところと、さわやかな香りです。花びらは生のままサラダで食べられますし、葉も香りが高く、食材としての活用やフレッシュハーブティーとして楽しむこともできます。

一人者)に特別コース料理作ってもらい「花嫁」を楽しみます。また11月8日には、紫雲寺の多奈可やで「花嫁を愛でる会」を開催します。

一重菊「花嫁」を食してみたい方、興味のある方は、一重菊「花嫁」プロジェクトまで連絡してみたいかごでしよつか。

(連絡先: 0801548216436)

**小学校環境学習パネル展
11月にイオン新発田店で**

新発田市、聖籠町、胎内市の小学生がさまざまな角度から「環境」に触れ、その学習成果をパネルで紹介し、とき/平成26年11月8日~11月16日
午前10時~午後10時
(最終日は午後5時まで)

ところ/イオンモール新発田2階通路
主催/NPO法人加治川ネット21

《編集後記》

近年、海外では盆栽の人氣が高まっています。生の草木を使い、野外で見られる大木の姿を鉢の上に再現する盆栽は、奥が深く、日本では盆栽づくりを趣味にしている人も多いうようです。近年では若い世代の愛好家も徐々に増えてきてはいるものの、盆栽の売れ行きは低迷しています。一方、海外では盆栽人氣が上昇中。日本からの輸出は5年前と比較すると4倍にもなります。

輸出国の一つハンガリーでは、番組企画で盆栽が取り上げられたことを契機に、数年前から盆栽バブル期に入り「BONSAI」の看板を掲げた店も数多く見受けられます。しかし、店で扱う盆栽の多くは、安く量産される中国産だそう。

日本では盆栽の輸出には輸出先の要求基準を満たしているという農水省の証明が必要で、その検査には時間や手間が掛かりますが、品質や形の良さは海外でも折り紙付き。高価でもじっくり育てられた日本の盆栽を求め人も増えており、それが輸出増に繋がっているようです。(T・W)

NPO法人加治川ネット21の紹介	
設立	1996年11月。2003年5月法人化
活動目的	21世紀を生きる子どもたちにより環境(自然、伝統、文化)を残し、伝える。
主な活動	水と親しむ水辺の大楽校、生き物調査、小学校環境学習支援、川辺や町並み散策、手前みそ作り、シンポジウム開催
受賞歴	環境大臣表彰、新潟県環境賞、「日本の水をきれいにする会」会長表彰ほか
年会費	法人会員10,000円、個人会員2,000円

くらしの方言 その13 ごっしえやける

ある日の夕方、電話がかかってきました。
ととさ 「はい、もしもし、〇〇です。」
(電話の向こうから早口で)
「△△マナー社より大変お得な××信託のご案内です。今なら特別に追加特典をお付けしますので☆8※◎…～」

ととさ 「いらねえ、いらねえ。おらごにやよげな金なんねえ。電話切るでえ。」
(ガシャン!)

かかさ 「電話、何だったねえ」
ととさ 「まあ～た何かの勧誘電話だ。しつこでごっしえやけること。」

かかさ 「またかね、勧誘電話ばっかだね、気づけばねえね。」

※「ごっしえやける」とは腹が立つ、思いましい思いをすること。業腹(腹の立つこと)、やける(思いわずらうこと)。この辺りが語源ではないでしょうか。

環境豆知識 Vol.18 マイマイガ、大量発生

今年の夏、大量発生したマイマイガは、ドクガ科の昆虫です。その科名からも想像できる通り、ふ化直後の幼虫には毒毛があり、直接触れると皮膚の炎症を起こす恐れがあります。成虫には毒がないと言われていたのですが、鱗粉に触れても炎症が起こる可能性があるため、皮膚の弱い人は注意が必要です。

今まで名前すら聞いたことがなかった、という人もいるかもしれません。実はマイマイガは約10年周期で大発生するという性質を持っています。一度に500個前後の卵を産み、この事態が終息するまでには2・3年かかると言われています。来年も気が抜けません。

マイマイガの学名はLymantria disparで、disparは「同じでない」という意味です。オスとメスで大きさや色が異なり、茶褐色のオスに対し、メスは白色で大きく目立ちます。成虫の寿命は1週間～10日ほどと儚く、その間に多くの卵を産むことを考えると、懸命に生きているのだとしみじみ思います。しかし、やはり大発生は勘弁してほしいですね。



のおいしさを覚えると田畑を荒らします。また、イノシシは、体についた虫やダニを取るために泥あび(ヌタうち)をする習性があり、田んぼで泥あびをされると稲がなぎ倒されたり、米に異臭が付いたりして、稲の被害は大きくなります。県内の24年度の農産物被害金額は約950万円です。その9割は稲の被害でした。

今はまだ、新発田市では姿が確認されていませんが、そう遠くない時期に「イノシシ目撃」のうれしくないニュースが流れて来そうです。



ピオトープ池にはトノサマガエルもいたよ

が舞い始めました。夜の観察会に期待が高まりましたが、夕方から雨風が強くなり、残念ながら観察会は中止となりました。でも今年もホタルはたくさん舞っていたそうです。

した加減が飛行時間に影響します。子どもたちはスタッフの指導を受けながら楽しそうに遊んでいました。

この牛乳パックの竹トンボは、9月23日にイオンモール新発田店で開催されたエコカーニバルでも、「エコ」な手作り玩具として、当会のブースで紹介しました。

米倉有機の里でホタル観察会 今年は生き物調査も

米倉有機の里交流施設運営協議会主催のホタル観察会が、平成26年6月28日に有機の里交流館で開催され、今年も当会が講師を担当しました。

例年は夜だけの観察会ですが、今年は昼と夜の二部構成。昼の部は地元のみ倉、大槻の子供会による生き物観察

会です。米倉ピオトープのある水路前に地区の子どもたち30名余りが集合しました。最初はおそろのおそろピオトープ池に網を入れます。一見何もないように見えました。トノサマガエルがいました。トノサマガエルは希少種ですが、この辺りではまだ健在のようです。

続いてアカハライモリも見つかり歓声が上がります。ヌカエビやヤゴなどの小さい生き物も網にかかり、90分の観察会で15種類の生き物が取れました。最近では村部でも魚取り、虫取りなどをする子どもたちをあまり見かけません。大人たちが加わるとイベント規模が大きくなり、子どもたちにとって普段できない事ができる貴重な経験となります。それが地域に関心を持つことに繋がればと期待するのですが、今年6月10日頃からゲンジボタル



川に入る前にみんなで記念撮影

省エネアクション「夏」 みんなで節電をしよう With 水辺の大楽校

今年の水辺の大楽校は、7月27日、新発田青年会議所と共催で、旧車野小学校と加治川河原を舞台に開催されました。当日は天候が心配されましたが、無事に川遊びも楽しむことができました。

午前中は、屋内で省エネクイズと水鉄砲作りをした後、内の倉ダム湖トンネルでの肝試しを行いました。水鉄砲は、竹筒や使い古しのタオルを使って作ります。竹筒の大きさによって、必要なタオルの量や紐の締め具合に工夫が必要です。子どもたちは試行錯誤しながら、一生懸命作成していました。手作りの水鉄砲は好評で、みんな夢中



川の流れにうまく乗れるかな

午後は加治川での「かっぱの川流れ」体験でした。雨の影響で少し流れが速く、水の濁りも見られましたが、安全対策万全での実施です。川に入り初めは「冷たい!」「こわい!」という声が多く上がり、子どもたちは不安そうなお顔をしましたが、実際にライフジャケットを着用し、川流れを体験してみると、徐々に楽しそうなお表情に変わっていく様子が窺えました。勇気を出して流れてみなければ味わうことのできない、特別の楽しさがあります。ふと気が付くと、大人たちが一番楽しそうに川流れをしていました。

水は私たちの生活に必要な存在でありながら、普段はなかなか水環境に親しむ機会がありません。今回の大楽校で、身近な水環境に興味を持ち、その楽しさや偉大さを感じてもらえたら嬉しいですね。

キャンドルナイトイン 胎内に にぎわい創出に当会も一役

地球温暖化防止や節電を呼び掛けるキャンドルナイトイベントが今年で実施されています。6月21日、今年で4回目となる胎内市でのキャンドルナイトイベントに、当会も初めて参加しました。



一人ひとりに作り方を説明

キャンドルナイトは、夜に電気を消してキャンドルの明かりで過ごすというものです。当会が参加したのは、屋の部。竹の替わりに牛乳パックとストローを使った「竹トンボ」づくりです。

新発田の自然

新発田にもイノシシ現れる?

地球温暖化の影響で、米をはじめ農作物の産地は徐々に北へ移動し、今や北海道もおいしい米の産地の一つとなっています。そしてイノシシも北上。10年ほど前の新潟県の調査では、下越地域では全く確認されていなかったイノシシですが、その後、県内の生息分布域は広がり、阿賀町や村上市などでも生息情報報告せられるようになりました。

新発田市ではまだその姿も被害も確認されていないものの、昨年と今年、山間部の田んぼなどで足跡が発見されています。今年の春には、滝谷森林公園でも足跡が見つかりました。毎年大勢の人で賑わう公園のため、新発田市では一時公園を閉鎖し、夏のキャンプシーズンに備えてイノシシが侵入できないよう電気柵を設置しました。

イノシシは警戒心が強く臆病な動物ですが、障害物を確認すると助走をつけず突進します。1メートル以上跳び上がる力を持ち、鼻の押し上げ力も相当なもの。70キロもの重さの物を簡単に持ち上げたという記録もあります。他県では人間が襲われたという事故も起きています。

農産物への影響も懸念されます。イノシシは芋や木の実、ミミズなど何でも食べ、学習能力が高く、農作物